市民の声

市当局や議会、または個人同士の攻撃にならぬご意見をおよせ下さい。締切り＝毎月二十日　宛先き＝市役所内広報係

とどかぬ広報

広報は発行されてみると必要となつてきた。ところが、七号はすでに発行されているのに三十一日現在、わたしたちのところにはとどかない。これはどうしたことだろう。市役所にも、広報委員会にも連絡してあるのに。市民のために発行されたものは、市民全部にゆきわたるようにしてもらいたい。またこんどのものは、どういう理由で届かないか、その理由をたずねる。（中町・寅）

広報委員会から

広報の配布についての質問ですが、広報は、市役所より連絡員を通じ、各家庭に配布されています。現在のところ月の十五日を目標に編集発行していますが印刷その他の都合により一両日ぐらい遅れることがときたまあります。印刷所から納入された広報は、一日も早く配布するためその日のうちに各地区に廻し、小使さんより連絡員を経てみなさま方におくばりしていますが、早い部落ではその日のうちに配布されている処もあります。すくなくとも連絡員の手許までは、発行の二〜三日後にはとゞいているのが普通で、とくに市役所（本庁）の付近はその日のうちにとゞいているはずです。七号広報は、五月十七日に発行しました。広報の記事には期限のあるものもあり当委員会としても、なるべく早く皆さまの手許にとどくよう、努力はしていますが、何分末端までは手がとゞきかねますのでくわしいことはわかりかねますが、何かの事情によりおそくなつていることもあろうかと考えられます。とくに次号の編集にかかつた五月の末に、まだ配布されてないとは、委員会としてはげせないことです。早く市民の方に配布されるよう委員会としても大いに希望し、声を高くしてお願いするものです。

国産の新農薬を

南国市は高知県第二の都市であるとはいえ、稲を作つている面積が大部分である。この稲に使用する農薬の大部分が外国生れである。種籾の消毒に使うウスプルンがそうであり。BHCがイギリス生れである。めい虫の特効薬ホリドールがドイツのバイエル会社製である。このホリドールは虫にもよく効くが人間にもよく効くのはご承知の通り。これがもう少し人間に害が無く、虫に害をあたえる薬はできないだろうかとは誰もが考えたところであつた。それが今年はデイプテレックスという新農薬が出て盛んに使われているが、これもまたバイエル会社の生れである。

日本で一番多く栽培され、一番重要である稲の特効薬くらいは日本で発明されてもよさそうなものである。それが稲を作らぬドイツのバイエル会社の助けを借りなくてはならぬとはなさけない話ではあるまいか。日本を守るために一機五億円のロツキードも大いに必要であろうが、日本人が生きるために米も大いに必要である　私はせめて新農薬の研究費に一億円も使えば人間には害がなくて害虫にはよく効く特効薬ができると思う。（一農民）

がまんができない

ラジオ、テレビも近所の迷惑を考え気を配つて聴取しあつているのに、これはまたわがもの顔にほとんど毎日拡声機映画宣伝をやり付近の住民を泣かせているところがある。ある劇場だ。商売であればある程度止むを得ないとしても、午後四時ごろから映画の初まるまで民家にスピーカーを向けて同じ曲のレコードをくりかえしてやられては話も出来ない。ようやくねついた子供は飛び起き、児童は勉強は出来ない。自分のため人に迷惑をかけることはゆるされない。（久礼田・一住人）

主張　時のみかた

六月十日は時の記念日だつた。こうして毎年〃記念〃の日を迎えているのに会合などの定例が守られることは少ない。五時始めといつても半時間はおろか、一時間はザラだ。おくれる事情はいろいろあろうが「どうせ時間は守られないからおくれていこう」ということが大きい原因になつている気もする。汽車に乗りおくれまいとするような気持ちをほかのことに持てぬものか。南国市議会でも議員は開会を待ちかねているのに、執行部が姿をみせず開会できないこともあつた。いやしくも議会である。事情があつて—というようなことを理由とすることは許されない。生命、財産などに対する変事でないかぎり議会の開会時刻は優先するというほどのところ意気を持つてほしい。また時間を大事にすることは、定刻を守る〃いうことだけではない。

たとえば、南国市議会でそう重大でないことをいい張つてずいぶん時間を食うことがある。当事者は平気だが、第三者が聞くと「理くつのための理くつ」とみえるものが多い。市発足後すでに半年。ここらあたりで生彩とスピードのある議会運営が望ましい。この望みは時間にまつわるとともに広い意味を持つことを考えてもらいたいものだ。わたしたちは〃今の時間〃が大事だ。よいたとえではないが〃いま〃の経過はそれだけ死に近づいたことになる。こう考えると時は実に貴重になつてくる。時間を守ることで有名だつたのは、かつて旧町村内の各種団体代表有志で組織されていた嶺南会だ。いま市組織の準備をしているが当時はよく時間を守り定刻に顔を見せないものでも十分以上おくれたことはなかつた。だから話合いが進行していても、ほかの会でみられるような、おくれた人のために同じことを繰り返して話す必要がなかつた。話合いのさいそれほどの事情もないのにおくれてきてさも当然のようにすでに話合つたことを聞くほど無礼なものはないし、またての抜けたこともない。それもひとかどの人物であるほどこの我を強くする。〃時は金なり〃とは古いことわざのようではあつてもロケット時代のいまも通用することを考えよう。

農地買売、転用申請は月末までに

このころ、農地の買売と転用の申請が多くなつてきたが、農業委員会農地部会では、これを審議するためにほとんど、毎月上旬中に会を開いて申請者の要望にそうことになつた。よつてこれらの申請は毎月末日までに農委事務局へ手続きしなくてはならない。

市内の産業関係で知りたいと思うことがあれば、広報委員会へ質問をお寄せ下さい。紙上で解答致します。（締め切り毎月末、住所と氏名を忘れぬように）

曲り角にきた米作

香長平野での米作りは、いまたしかに曲り角にきている。といつても多くの農民たちにはまだ実感として受取れないかも知れないが、こゝ数年後にはおそらく名物の二番稲がすがたを消さないまでも、半減するのではあるまいか、そういう不安が現実にたかまりつゝある。農家は数年来、豊作ブームに湧きたつてきた。戦争のさ中から戦後にかけて、苛酷な供出を強要されてきた農家に取つて、米の生産過剰などということが事実として受取りがたいのは当然のことだが、効果的な農薬と農機具を使用することによつて、一作十俵の夢が案外簡単に実現したからである。そして一躍消費県から生産県へとのしあがつてきたのは農民達の手柄だが、こんどは逆にみづからの手柄に苦しめられるような事態が持ち上がつてきた。今年の供出米の条件は、俵装選別と全く農民泣かせというほどの厄介しごくなもので、百俵もこれをするということになると頭痛のタネになること請け合いである。なぜ供出米の条件がそれほどむずかしくなつたかといえば、それには大きな理由がある。生産県になつたとはいつても、仮に県内で自給自足すれば余剰米はいくらもないはずだが、早生の劣等米に対する県内消費者の配給辞退ということが、理由になつている。早生米の配給を辞退して県外の優秀な闇米を買うという現象は、過分な余剰米をそこに生み出すことになる。いきおい県の当事者としてはその劣等米を早場米として県外へ移出しなければならないのだが、移出した結果は大不評を買つて、高知県産米は以後一切買わないというほどの嫌われようで、大阪市あたりの街の主婦連が不買同盟を結んでいるとのことである。

劣等米よどこへゆく——こんど天災による不作が何年もつづかない限り、劣等米のゆくべき場所はないであろう。しかし安ければ買おうという声はあるようだ。品種による価格差は明年あたりからは避けられないと断定する人さえある。早生稲と二番稲合算して反当十五俵。夢よもう一度といつても、その夢は二度と訪れてこないのではあるまいか。時の流れは早い。わたしが香長平野の米作も早生から中生の優良米へと、だんだん移行してゆく運命にあると私は考える。（十市・梨夫）

六月の稲作

南国農改普及所

平坦部

〔早稲〕上旬よりほとんどのものが幼穂形成期に入るから水を充分入れ干さないようにする。

〔中稲〕中間除草をする。田植え後40日ごろまでに終り、2，4Dの使用も同様。水はつとめて浅水にし、田植え後40日ごろ（6月末〜7月5日）中干しする。穂肥は幼穂がみえる程度のとき（7月20日ごろ）窒素500匁（硫安は2貫前後）と加里1貫（塩加は1.5前後）をまぜて使う。

跡作と二稲

〔播種期〕6月20日〜25日

〔播種量〕坪（3.3平方メートル）2合

〔苗床〕まずたがやして石灰窒素カルなどをやる。肥料は坪当り基肥が窒素1〜3匁、燐酸10匁、加里12匁（塩加で20匁くらい）窒素肥料は生育に応じて追肥するのが安全。覆土後のモミガラ撒布は控えるがよい。発芽して青味を帯びるまではとくべつの場を除き床面にカン水しない。発芽後ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカなど防除のため、5日ごとにマラソンを撒布する。イモチ防除のためはやめにセレサン石灰を撒布する。

山間部

〔早生〕6月中旬が幼穂形成期になるから肥料不足のものは穂肥をやる。（とくに注意のこと）ビニール畑苗代の苗などの吸肥力の強い苗を使つたものは、秋落ちしやすいから注意し少し多目にやる。紋枯れ病やイモチが発生し始めるから防除に万全を期さなくてはいけない。

〔中稲〕活着後水はなるべく浅くする。6月上、中旬から分ケツ期になるため肥料をやり、茎数の確保をはかる。イモチ、アオムシ（フタオビ、コヤガ）の発生がみられるようになるから防除をはかる。

ブドウ栽培講演会

日時　六月二十九日（午前九時〜午後四時）

場所　後免野田小学校講堂

講師　葛目忠雄氏（熊本市葛目ブドウ研究所長）

演題　暖地におけるブドウ栽培について（営利品の選択、肥料管理の特異性ほか）

主催　南国市産経課　南国市果樹研究同志会連合会

總合開発と香長平野

-2-

浜田春水

これによる運河の減水は各所で中井から落して補給するのであつた。だが舟人に大物を流下するときは平野への分水口を来いで水を混えた。旧平野にとつては、か弱い山田堰に全生命を委ねたばかりでなく、維持の負担が懸けられた。旧平野にとつては全く勝手の狂つた舟入水系新秩序に切りかえられたことに問題が宿つた。今まで自由になだれこんでいた水利の大転換は水勢に変調を来し、これに応じての人為工作や自然変化など、年の経過と共に諸種の状況悪化の誘因ともなつた。これまでなかつた後川氾濫もその一つである。用入運河は平野西部にも大水禍を招くようになつた。嶺南先生の記録によれば、天明七年の大津平野附近を中心とした一帯の大氾濫は目を背けるものがある、その他も恐らく同様であつたであろう。これらは舟入運河下流部設計の大誤断からと思われる。運河は上下山田井や国府田斜面の水までも補水しながら、なんで南下していた大津川の自然流を廃川したのか。（ここに似た氾濫は大埇関部落以南や時久川下流部にもある）先年新木の堤防が南へ決潰したのも故なきではあるまい。今日のように堤防を頑丈にするだけでは明見、大津などは氾濫区を拡大するにきまつている。今一つは舟入の分流新川によつて西野々、住吉野、介良野などの開田もみられたが、これまた不用意な設計ではなかつたのか。原始明見川の胴中が破壊されたのは致命的であつた。さらにその南部に及ぶ一帯の水系旧秩序は完全に新川によつて改変され、野田方面や後免東部以南の氾濫因となつたばかりでなく、近年は道路軌道がこれに追討をかけているし、またこれらの悪化を踏襲したままの堅固な河川工事も施されている。ともあれ自然に形成された地貌と水理を無視することは許されない。明治期以来、国県道や軌道が平野上に縦横開通されたが、これは平野産業には背を向けた工法がみられ、平地農家に縁遠い一般交通搬送など他の文化系の施設であつて、従つて環境平野の生理にマツチしない独自の規格をもち、その高い路面や狭い橋下に水を潜らす仕組など、流去水を無視した工法が、これまた平野に痛手を与えている。堅固な路体は表に湛え狂う水と高さを競い、（物部川鉄橋西方国道は先年決潰）農道は縁を断たれたかのように、高い路面を仰いでいる。長浜浦戸間の道のように、安定感と調和のとれたのは香長平野では見受けられない。これらは平野悪状態のままで工事されたからでもあろうが、平野改装えと踏切れず現状のままというのであつたなら、将来は平野上の施設が一層と整備増強されるに従い、益々加はる同様の悪化累積に悟嘆の叫びをあげるようになるのは必然だ。

今まで述べたように、香長平野は無秩序な開拓と不合理の寄せ集めであつて、水口切れのつぎ合せに仕上げられている。各地整理された近代平野とは遠くかけ離れた現状は、各所に滞水となつた氾濫もみられるし、無数の堰床や長い引水路によるなど、まことに不合理な水利と失費徒労が繰返されている。一昨年会談の席で、中沢浪治氏が「全面耕地整理」の要を述べられたのも故なきにあらずだ。概観するに平野上には縦横に用水路が行渡つている。これらは若干の手当で幹支の[illegible]潜えが容易であろう。そしていくつかの幹線用水路は、時に谷渡（サイフォン）してでも平野高位部を追うて流下せしめ、両翼の低位野面へ自然灌水する仕組が欲しい。そして野面には滞水の氾濫が現れないように低位部へ誘導排水すべきであろう。これがためには幾派との自然河跡が荒廃の姿で待ちわびている。これには頬かむりで不自然闘跡的な排水法は後年へ禍が遺されないであろうか。今まで局所的な排水工事も是認されてはきたが、人工悪化した平野の大勢から成果は顕著ではなかつた。また昨今活潑にみられている公私のコンクリート工事も大観的配慮が望ましい。われわれとしては今次総合開発を機会に、昔ながらの脚絆わらざを脱ぎすてて平野近代化へと踏切る好機ではあるまいか。同時に開発の基本設計にもこれらの面を重視されるよう期待するものである。（高木稿は高知大の上森先生が磨きをおかけ下さつたもので衷心感謝の意を捧げたい。）